

No.	委員からの質問	回答
1	「②初期集中支援チームによる支援後の連携した支援に向けて、情報共有と支援方法についてのご意見」とあるが初期集中支援チーム内での連携でしょうか。チーム外の連携でしょうか。	チーム外での連携についてご意見をいただきたく、お伺いしたものです。初期集中支援チーム介入後、必要なサービス、継続的な支援に繋げるためにはその情報をかかりつけ医など医療・介護関係者と共有し、包括的に支援していくことが重要だと考えています。初期集中支援チームが介入したことだけで終わらせず、関係機関や今後協力を依頼したいサービス提供機関と連携し、ご本人、ご家族が希望される生活が継続できるよう支援していきたいと考えています。
2	初期集中支援チームの活動実績数は、他の自治体と比べて多いのでしょうか。	人口規模が同等の鴻巣市、北本市に問合せたところ、活動実績数はほぼ同数または多い結果でした。今後も初期集中支援推進事業を認知症の方への支援方法のひとつとして普及啓発し、早期の介入、支援の継続ができるように努めていきたいと考えています。
3	介護保険サービスの利用につながらない理由も理解できますが利用向上に向けての今後の取り組みがあれば、お聞かせください。	介護保険サービスは、必要なかたに必要なサービスが提供されるよう、周知、支援することが重要であると考えます。初期集中支援チームでは、対象の方に何度も訪問し、信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げる支援をしています。今後もこのような個々への支援活動を継続していくことが大切であると思っております。また、対象のかたの関係者を通じて情報提供していくなど、関係機関と連携して支援していくことも必要なサービス利用、支援につなげる取り組みのひとつであると考えています。
4	以前の活動から直近の活動がどのように変化して、何が現状の問題点なのか。（資料だけでは今一つわからない）	初期集中支援チームは平成28年度から開始しておりますが、開始当初に比べて、介入から必要なサービスにつなぐまでの期間が短くなっていることや、ケアマネジャーなどご家族以外の関係者からの相談も増えています。現状の問題点としては、初期集中支援チーム支援終了時の、支援方針の引継ぎ等継続した支援のための連携が課題であると考えています。
5	気づき連絡票の試行運用について、実際に運用を行った際、民生委員さんの感想は如何だったのか。	気づき連絡票は、実際に運用することを想定し、民生委員さんからの意見をいただく協議を重ねた結果、「これなら運用しても良い」との総意を得て、令和2年12月から試行運用が始まったところです。今のところ、運用された相談はありません。

6	気づき連絡票から専門職の支援チームやかかりつけ医などへつなげる際、連携を行う上で、試行運用では問題はなかったのか。	気づき連絡票は、令和2年12月から民生委員さんの施行運用が始まったところであり、今のところ運用された相談はありません。
---	---	---